

JICA課題別研修の一環で来日した 海外研修員が農業用水利施設等を視察

令和7年5月29日（木）、開発途上国の農業農村開発実務担当者を対象とした研修を実施しました。この研修は、国際協力機構（JICA）から宮城県に対し受け入れ依頼があった「農業生産基盤の整備」に係る課題別研修の一部として、中央アジア圏6か国から8名の研修員を受け入れ、農業農村整備部が実施したものです。当日は、管内のほ場整備実



農地整備事業「尾袋川東地区」（角田市）の視察の様子



内町ため池（角田市）の防災工事を視察

施地区やため池防災工事の現場へ案内し、事業の概要等について、同行した通訳を介し担当者から説明を行いました。各現場では研修員から様々な質問が寄せられ、管内の農業農村整備事業を海外の方々に紹介する貴重な機会となり、研修員、随行職員の双方にとって有意義な1日となりました。

【地方振興事務所 農業農村整備部】

「休耕農地を、また稼げる梨園に！」

「休耕農地再生で初期投資を少なく梨農家をスタート」

七ヶ浜町出身の吉川一利さん（36歳）は、利府町と角田市の地域おこし協力隊としてそれぞれ3年間果樹を学び、今年の1月から角田市で「吉川果樹園」として経営を開始しました。

角田市の協力隊活動中には、休耕梨園の復旧に取り組み、荒れて足も踏み入れられない状況だった梨園内の一部の木を抜根し、新たな苗木を改植。園地の若返り化とまだ活かせる木を見極めながら復旧作業を続けること3年、相応の収入を得られる状態に復活させました。この地で未永く農業を行う基



吉川一利さん



道の駅かくだとのコラボイベントで消費者と協力し収穫作業

礎を固めるべく、自ら再生させた梨園の売買契約を締結し、さらには新たに梨園地を借り受け、経営面積を拡大しています。

今後、果樹農家を志す人にとって、休耕園地の再生利用は、魅力的なモデルになりそうです。

角田市を果樹の産地として盛り上げて行きたいという想いを胸に、一歩ずつ進む吉川さんの歩みに、大きな期待が寄せられています。

【地方振興事務所 農業振興部】